

2023年6月に新しく相模原協同病院の病院長に就任しました渋谷明隆です。自己紹介と就任のご挨拶を申し上げます。

私は1980年に北里大学を卒業し、専門は消化器内科で、北里大学病院では肝炎、肝硬変、肝臓癌など肝疾患の診療と教育、研究に従事してきました。また、2006年から約10年にわたり北里大学病院の新病院プロジェクトのリーダーとして新病院建設、移転、運営を主導してきました。その間、医療経営学を学び、医学部教授、大学病院副院長などを経て、学校法人北里研究所の常任理事となり、大学全体の経営や専門学校、大学病院分院の経営改革などに従事してきました。

今回、ご縁があり相模原協同病院に赴任させていただきました。

相模原協同病院が2021年に橋本駅から2キロ離れた現在の橋本台の地に病床数400床の急性期病院として新築移転して2年半が過ぎようとしています。移転当時はコロナ禍の最中であり、患者様、地域住民の皆様、医療関係者の皆様には大変なご迷惑とご心配をおかけしましたが、職員の一致協力により新病院ではこれまで以上の医療提供体制が整っています。特に年間8000台の救急搬送に対応し相模原市の救急医療体制に大きく貢献しています。また、脳卒中センターや救急科を新設するとともに循環器センターに不整脈部門を強化しアブレーション治療にも対応しています。今後、さらにはがん診療にも専門性を発揮し、より質の高い医療を提供してまいります。

市立病院のない相模原市では、大学病院をはじめ地域の医療機関、病院協会、医師会との連携を強化し、地域住民の皆様の健康を面として支える必要があります。高齢化社会を迎えて回復期医療施設、療養型医療施設、介護施設との連携も重要です。さらに相模原協同病院は災害拠点病院としてDMATという大規模災害に際して機動的に活動のできる特別な訓練を受けた専門チームを組織し、大災害時にも対応できる体制を整えているところです。

新型コロナウイルス感染症が感染症法上の第5類になっても新型コロナウイルスが消えたわけではありません。今後、さらに新しい感染症の発生も危惧されています。相模原協同病院はコロナ感染症の日本での第一例目を診療した実績がありますが、新しい感染症にも医療体制を整えアンテナを張り巡らして予防を含めて注意深く対応してまいります。

引き続き、皆様のご理解、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

病院長 渋谷明隆